

## 世界経済・金融市場動向

## 先月の振り返り

## ●日本株式市場

2月の日経平均株価は上昇しました。上旬は衆院選を巡って与党優勢が報じられたことから上昇し、選挙後は一段と上げ幅を拡大しました。中旬は高値警戒感が意識される中で、米国市場でのハイテク株安が重しとなり下落しました。下旬は中東情勢や中国の対日輸出規制が重しとなる一方、日銀審議員候補者2名がともにリフレ派と受け止められたことで上昇し、最高値を更新しました。

## ●日本債券市場

2月の日本の長期金利は低下（価格は上昇）しました。上旬は、衆院選を巡る与党優勢観測と自民党大勝を背景に株高となったことや、高市政権の積極財政への警戒感から金利は高止まりしました。中旬から下旬にかけては、財政拡張懸念がやや後退したことに加え、10～12月期GDPが予想外に下振れしたことで早期利上げ観測が後退しました。さらに、地政学リスクを背景としたリスクオフで欧米金利が低下したことで、金利は低下しました。

## 経済金融環境

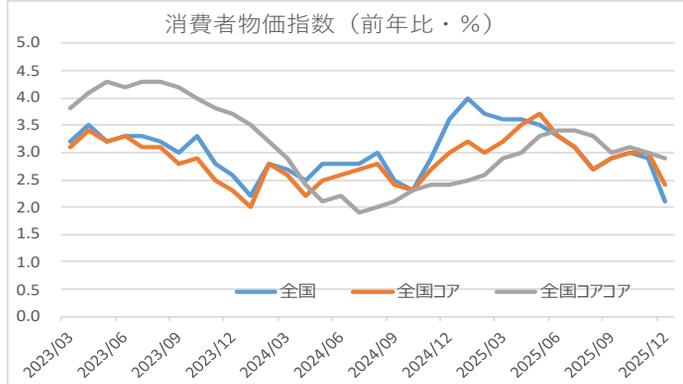
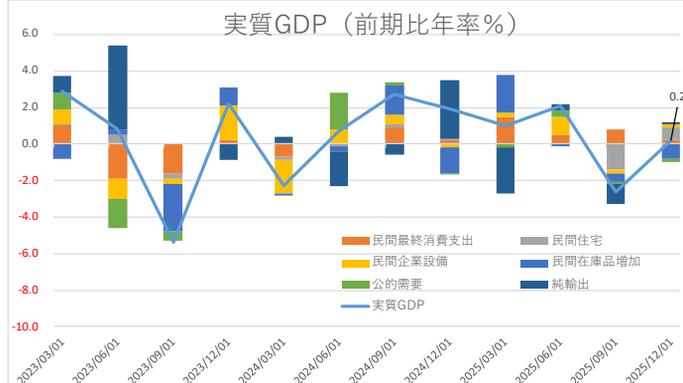
## ●日本経済環境

2025年10-12月期の実質GDP成長率は前期比年率+0.2%と、2四半期ぶりのプラス成長となりました。住宅投資がプラス寄与となった一方、在庫投資がマイナス寄与となりました。また、個人消費もプラス寄与となったものの、前期からは縮小しました。1月の消費者物価指数は、ガソリンの暫定税率廃止を受けたエネルギー価格下落や食料品価格の伸び率鈍化を背景に、総合で前年比+1.5%、コア指数が+2.0%と大幅に伸び率が鈍化しました。

## 今後の見通し

## ●日本株式市場

堅調な企業業績の継続や、政府による設備投資減税への期待感が下支えとなる一方、これまでの急速な株価上昇から、高値警戒感も意識されています。イラン情勢悪化、原油価格上昇に対して、米国比、株価が大きく下落したように、株価は上昇基調を維持しながらも、ボラティリティの高い荒い値動きが続くと想定します。



(注) データ期間：2023/3/1～2026/2/28

(出所) Bloombergのデータを基にCCIアセットパートナーズ作成

## ●日本債券市場

日本銀行が政策金利を中立金利水準まで引き上げていくという方向性は変わっておらず、インフレ見通しの不確実性と債券需給の悪化等を踏まえると、長期的には金利には上昇圧力がかかりやすいと考えます。また、高市政権の財政拡張を巡る懸念が強まる場合や、過度な円安の進行により日銀の利上げ時期が前倒しになるなどの観測が高まった場合は、金利に上昇圧力が掛かると想定します。

## 世界経済・金融市場動向

## 先月の振り返り

## ●米国株式市場

2月のS&P500指数は下落しました。上旬は、AIによる既存業務代替懸念やAI関連の巨額設備投資への収益性懸念を背景に大きく下落した後に買い戻しが入ったことで小幅に上昇しました。中旬は、AI代替懸念に加え、中東情勢への警戒感から下落しました。下旬は、新興AI企業がソフトウェア企業との協業姿勢を示したことでAI脅威論は和らいだものの、中東情勢の緊迫化を受けて下落しました。

## ●米国債券市場

2月の米国長期金利は低下(価格は上昇)しました。上旬は求人件数の減少や小売売上高の軟化を受けて、米国経済の先行きに対する不透明感が意識され金利は低下しました。中旬から下旬にかけては、一部運用会社が融資ファンドの解約停止を発表したことを受けてプライベートクレジット市場への警戒感が強まったほか、通商政策を巡る不透明感の変化やイラン情勢を巡る地政学リスクの高まりを背景にリスク回避の動きが進み、金利は低下しました。

## 経済金融環境

## ●米国経済環境

12月の小売売上高は前月比横ばいとなり前月から伸びが鈍化しました。

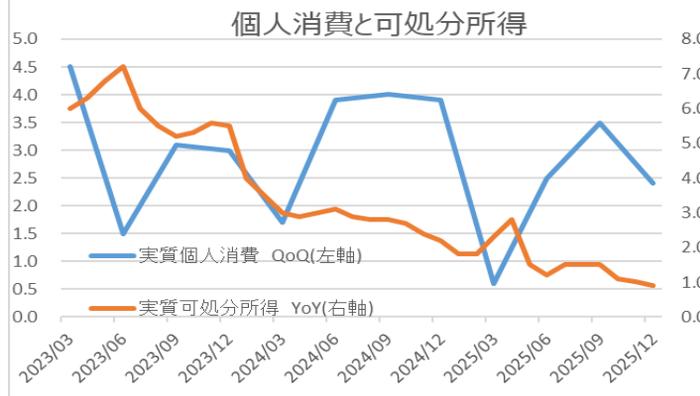
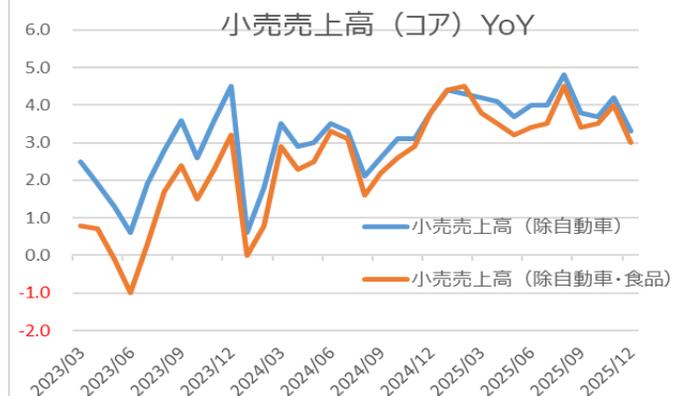
自動車・ガソリン関連の弱さが重石となる一方、自動車・ガソリン除きでも概ね横ばいとどまり、個人消費は底堅さを保ちつつ勢いは一服したとみられます。

12月の実質個人消費は小幅な増加にとどまり、実質可処分所得においても名目賃金の上昇を物価上昇が相殺する形で減速が続いています。

## 今後の見通し

## ●米国株式市場

直近の企業決算では、AI関連企業を中心に引き続き堅調な業績と積極的な設備投資が確認されています。周辺産業へと成長の裾野が広がりつつあることから、株価は基調として底堅い推移が続くと見込みます。一方で、AIによる既存事業者への影響や巨額投資の収益性を巡る懸念、イラン情勢をはじめとした地政学リスクの長期化懸念などは引き続き意識されやすく、足元の調整一巡後も、局面によっては一時的な株価変動が生じる場面は想定されます。



(注) データ期間：2023/3/1～2026/2/28

(出所) Bloombergのデータを基にCCIアセットパートナーズ作成

## ●米国債券市場

市場ではFRBによる積極的な利下げが期待されていますが、利下げ期待はすでに相当程度織り込まれていると考えられるため、金利はレンジでの推移を想定します。

一方、イラン情勢を巡る地政学リスクが長期化した場合にはエネルギー価格の上昇を通じたインフレ再燃が警戒されるほか軍事費拡大に伴う財政拡張も意識され、金利には上昇圧力がかかると想定します。